



生涯学習フェスタ開催

挑戦から生まれる感動を発表



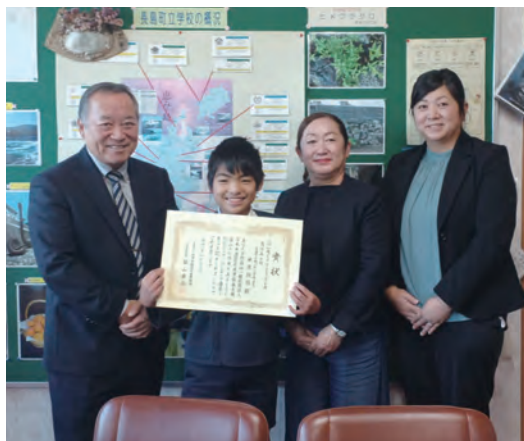
11月23日、生涯学習フェスタを町文化ホールで開催し、約140人が参加しました。

これは、生涯学習講座の成果を発表することで豊かな人間関係の形成など目的としています。開会式では、田淵省二教育長が「生涯学習は、試行錯誤の挑戦から生まれた結果や感動だと思っている。学習活動が町の発展と文化継承につながることを祈念する」とあいさつしました。

この日は、ふるさと歴史講座や陶芸講座のほか、久留米大学の「子どもたちの未来を作るデジタル人材育成」などの発表が行われました。

「木のあるくらし作文コンクール」受賞

じいちゃんとの思い出を作文に



11月25日、米尾誠悟さん（城川内小5年）が第27回「木のあるくらし作文コンクール」の九州・沖縄ブロックカイクウズ・クスノキ賞を受賞したことを田淵教育長に報告しました。作文のタイトルは「じいちゃんの牛舎」で、内容は自宅の牛舎や牛の飼育を舞台に家族との思い出が綴られています。誠悟さんは「作文は、牛舎を建てたじいちゃんとの思い出を、ばあちゃんと一緒に振り返りながら書いた。受賞できてとても嬉しい。家族や親せきに褒められた」と受賞の喜びと作文への思いを話しました。

川床中学校強歩大会

励まし合いながらゴールを目指す



12月1日、川床中学校（西元ひとみ校長・46人）で長島一周強歩大会が開催され、全校生徒が起伏の激しい長島路36^{キロ}コースに挑戦しました。

スタート直後は、元気に歩いていた生徒も終盤は疲労がたまった様子でしたが、お互いに励まし合いながら笑顔でゴールを目指しました。

全コースを走り抜けた田中優成さん（2年）は「アップダウンが多いのできつかった。友だちと励まし合いながら完走することができた」と話しました。

川床地区山の神まつり

伝統を次の世代へ



12月3日、ホテルの里周辺の御神木で、川床地区の山の神まつりが執り行われました。

同地区の山の神まつりは、12月はじめの申さるか丑うしの日に行われ、言い伝えでは、申の日が早い年はオナキザル（仰ぐサル）といって果物が多く実り、丑の日が早い年はフルブキウシ（うつむくウシ）といって穀物が豊作であるとされています。

伝統を承継する石原涼さんは「集落に受け継がれる神事や行事などの伝統を次の世代に残していきたい」と思いを語りました。